

別記様式第4号(その2)

教 育 研 究 業 績 書		
令和 6 年 4 月 1 日		
氏 名 渡 辺 直 人		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
保育学、幼児教育学	フレーベル、幼稚園教育史、恩物、保育士養成	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ① 和歌山信愛女子短期大学での授業実践	令和2年4月-現在	板書を中心に授業を行い、適宜 ICT 機器、PowerPoint や Google Workspace などを利用した教育実践を行っている。また、授業内容に合わせてグループワーク、ディスカッション、課題解決学習、制作活動等を行っている。 (教育課程論、保育内容総論、保育・教職実践演習「幼稚園」、基礎演習、キャリアデザイン、卒業研究を担当(2024年現在))
2 作成した教科書、教材 ①『幼児教育 健康 人間関係 環境 言葉 表現 5領域概論[改訂版]』	令和2年3月	保育内容における5領域の教育課程上の変遷や、幼稚園教育要領に示された各領域の要点を抽出し概要をまとめた。また、健康・人間関係・環境・言葉・表現それら5領域に関わる、基礎的な科学的・心理学的諸理論を保育内容との関連性を持たせつつ紹介した。健康では各種身体的な発達段階、人間関係では人と触れ合う必要性、環境ではクルト・レヴィンやブロンフェンブレンナーだけではなく、ピエール・ブルデューなども詳細に記述。言葉では発声の発達段階、表現では支援の効果などを紹介している。
②『教育実践記録 保育・初等教育・中等教育・高等教育での教育実践[改訂版]』	令和2年3月	幼児期から青年期における教育実践上での留意点を述べている。それぞれの発達段階での違い、学級経営や授業論、児童・生徒・学生の人間関係や教師との関係性等現場における姿等、子ども理解や実践から垣間見えた教育課程上の課題、教育環境の重要性を記した。
③『かゆいところに手が届くシリーズ① 保育内容総論』「第3章 子ども理解」	令和3年3月	「第3章 子ども理解」を担当。子どもの理解を「社会的理解」、「心理・生体発達の理解」、「実践経験的・臨床的理解」の3つの観点から解説・考察を行った。科学的エビデンスのみならず、実践で得られる臨床的知見に関して、具体例・エピソードを交えながら説明している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ①授業評価アンケート 教育課程論	令和3年3月	2020年度における授業評価アンケートにて、大項目4つ全てにおいて、他平均(学科平均、短大全体平均)を上回った評価を得た。

②授業評価アンケート 保育内容総論	令和3年3月	2020年度における授業評価アンケートにて、大項目4つ全てにおいて、他平均（学科平均、短大全体平均）を上回った評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ①子育て支援事業	令和2年4月-現在	和歌山信愛女子短期大学保育科において、子育て支援事業に関わる。特定の日地域の子育て中の母子・父子を招き、子育て支援及び3歳児未満の保育を行っている。2022年からは、それら事業を支える「教育の和センター」の委員となる。
5 その他		特記事項なし。

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ①各種教員免許状	平成30年3月	幼稚園教諭専修免許状（平二九幼専第一二〇号） 小学校教諭専修免許状（平二九小専第七〇号） 中学校教諭専修免許状（国語）（平二九中専第一〇〇号） 高等学校教諭専修免許状（国語）（平二九高専第一〇八号） 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者に関する教育領域、肢体不自由者に関する教育領域、病弱者（身体虚弱者を含む。）に関する教育領域）（平二九特支一第二二〇号） 特別支援学校教諭二種免許状（視覚障害者に関する教育領域、聴覚障害者に関する教育領域）（平二九特支二第一二〇号）
2 特許等		特記事項なし。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

①和歌山信愛女子短期大学	令和2年4月-現在	<p>和歌山信愛女子短期大学において、現在に至るまで勤務しており、日々教育を行っている。令和2年から令和5年3月までは学生部に所属し、環境整備を行った。また、令和5年4月からは入試部に所属し、広報活動を行っている。</p> <p>他、委員会においては倫理審査委員会、及びきょう育の和センター委員にて、子育て広場の運営に携わっている。</p> <p>加えて、クラス担任を行っている。令和2年4月から令和4年3月は副担任として、令和4年4月から現在は正担任として、日々指導に当たっている。</p>
4 その他		特記事項なし。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 『幼児教育 健康 人間関係 環境 言葉 表現 5領域概論 [改訂版]』	単著	令和2年3月	デザインエッグ社 1-57頁	保育内容における5領域の教育課程上の変遷や、幼稚園教育要領に示された各領域の要点を抽出し概要をまとめた。また、健康・人間関係・環境・言葉・表現それら5領域に関わる、基礎的な科学的・心理学的諸理論を保育内容との関連性を持たせつつ紹介した。健康では各種身体的な発達段階、人間関係では人と触れ合う必要性、環境ではクルト・レヴィンやブロンフェンブレンナーだけではなく、ピエール・ブルデューなども詳細に記述。言葉では発声の発達段階、表現では支援の効果などを紹介している。 (57頁)
2 『教育実践記録 保育・初等教育・中等教育・高等教育での教育実践 [改訂版]』	単著	令和2年3月	デザインエッグ社 1-43頁	幼児期から青年期における教育実践上での留意点を述べている。それぞれの発達段階での違い、学級経営や授業論、児童・生徒・学生の間関係や教師との関係性等現場における姿等、子ども理解や実践から垣間見えた教育課程上の課題、教育環境の重要性を記した。 (43頁)
3 『かゆいところに手が届くシリーズ ① 保育内容総論』「第3章 子ども理解」	共著	令和3年3月	令和出版舎 24-34頁 (119頁)	【全体の概要】全国保育士養成協議会が示す「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」の保育内容総論の目標・内容に準拠し、保育内容総論の教科用指導書として執筆した。保育内容の歴史的な変遷、子ども理解、乳児保育、保育・教育課程と評価等、保育の基本・役割を紹介している。 【担当箇所の概要】「第3章 子ども理解」を担当。子どもの理解を「社会的理解」「心理・生体発達の理解」「実践経験的・臨床的理解」の3つの観点から解説・考察を行った。科学的エビデンスのみならず、実践で得られる臨床的知見に関して、保育者論の視点から、具体例・エピソードを交えながら説明している。 (監修：大滝 世津子、編著：古谷 淳、共著者：山本 詩織、小祿 朝也、古谷 淳、渡辺直人、村上 優衣、梅田 真樹・佐々木 明世、鬼頭 弥生、金山 茉莉花、土屋 文昭、宮本 和行) (11頁)
4 『教育方法・教育課程論概要 (1) 教育方法について』	単	令和5年7月	一般社団法人日本電子書籍技術普及協会	現在知られている主な教育方法を紹介している。学習の特質から授業方法と学習方法に分けて紹介説明した。授業方法では「一斉講義」、「課題学習(課題解決学習)」、「ロールプレイング・役割演技」等を紹介し、また学習方法では「個別学習(プリント学習、反復学習、トレーニング等)」、「実験」、「制作活動」、「フィールドワーク(野外調査)」等を紹介している。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				(pp. 1-46)
(学術論文)				
1 「就学前までに定着させたい幼児の生活習慣に関して：――保育者養成校学生はどのように考えているか――」	単著	令和2年10月	大妻女子大学人間生活文化研究所 575-583頁	現在、子どもの生活が懸念されている。今では昔と比較して大きく生活実態が変化している。今後も社会の変化に伴い子どもの生活は変化し、生活習慣が乱れ、健康が懸念されると考えられる。本研究ではこれら課題解決のための一資料として、幼児を保育・教育する立場に就くことを目指している保育者志願学生を対象に、就学前までに定着させたい幼児の生活習慣に対してどのような考えを持っているかを明らかにした。その結果、学生の考えは7つのカテゴリー、「睡眠」4項目、「食」4項目、「衣料」3項目、「排泄」2項目、「清潔」3項目、「社会的生活習慣」3項目、「遊び・運動」2項目にまとまった。 (8頁)
2 「フレーベルの神性論(1) ――子ども観からみたフレーベルの神性に対する認識――」	単著	令和3年3月	信愛紀要第62号 29-36頁	フレーベルの神性論は彼にまつわる様々な理論の核と成す重要な事項である。しかしながら、彼自身が神性というものをどのように捉えていたか、具体的に体系化された研究はなく、神性に関する情報も他トピックでわずかに触れられている程度であり、散見されている状態であるといえる。本研究では、フレーベルの神性論の体系化を目指し、第一報として、散見される神性に関する知見の収集を行った。フレーベルの神性論は主に子ども観から垣間見ることができる。本稿ではロマン主義的趨勢があった当時の思想や、フレーベル独自の子ども観をそれぞれ叙述した。 (7頁)
3 「現代家族の成員間関係性の調査」	単著	令和3年3月	信愛紀要第62号 37-43頁	現代のわが国では、著しく家族が変容している。機能、動態そして家族に関する意識も変化している中、改めて家族に関して再考する必要があると考える。そこで本研究では、現代ではどのような家族の在り方であるかを明らかにした。具体的には、子を対象に、子自身とその両親はどのような関係性にあるか調査を行った。結果、母―娘のつながりは強いものの、母―父、父―娘のつながりは弱いことが明らかとなった。これらのことから、現代家族は父親がやや孤立気味であることが明らかとなった。 (7頁)
4 「F. フレーベル教育論 ―― 発展経緯・歴史的背景を踏まえた一検討 ――」	単著	令和4年3月	信愛紀要第63号 59-66頁	現在、子どもの教育や発達に関して様々な問題が指摘されている。保育・幼児教育の振り返りが求められている中で、保育・幼児教育の基礎を築いたフレーベルの教育論に立ち返ることが重要であると考えられる。本稿では保育・教育やフレーベル研究の発展に寄与すべ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5 「自尊感情からみた保育者論 ——属性と尺度構成——」	単著	令和4年3月	信愛紀要第63号 67-75頁	<p>く、フレール教育論を構成する種々知識の収集・検討を行った。具体的には、フレールの生涯、恩物・恩物理論と日本の受容、教育論・子ども観、ロマン主義に関して考究した。 (8頁)</p> <p>現在、子どもや教育・保育をめぐって様々な問題が提起されている。子どもの心の問題が深刻化している中で、それら課題解決のためにも自尊感情は課題解決の一つの手がかりとなりうるであろう。特に昨今では保育体験は自尊感情の向上に役立っていることが示唆されており、保育と自尊感情の研究が求められている。本稿では、保育士養成校学生の属性、保育者の特質を調査すべく、保育士養成校学生を対象に自尊感情を測定・分析した。方法は、因子分析、Spearmanの順位相関分析を行った。その結果、因子分析においては、先行研究では1因子が確認されているが、本調査では2因子確認された。 (9頁)</p>
6 「保育学生の抱く理想の保育者像の研究——テキストマイニングを用いた保育者像の分析——」	単著	令和4年3月	信愛紀要第63号 77-83頁	<p>現在、保育や子育て、子どもをめぐった問題が多く存在している。問題解決の一つとして、よりよい保育者の育成が求められているといえよう。そのためにも、保育者養成に関連する基礎的研究が求められる。本稿では、保育者養成の発展に寄与すべく、理想の保育者像を明らかにした。さらに先行研究と比較し理想の保育者像の共通項を探った。調査方法は、アンケート調査を行った。自由記述での回答を求め、テキストマイニングを行った。結果、「保護者」、「優しい」、「寄り添う」、「気持ち」、「明るい」、「信頼」、「笑顔」、「元気」、「理解」、「子どもが好き」というイメージがあることが明らかとなった。また、先行研究との共通項として、「優しい」、「子どもが好き」が挙げられた。 (7頁)</p>
7 「戦前・戦後初期における幼児教育関連法令の批判的検討」	単著	令和5年3月	Jxiv(DOI: https://doi.org/10.51094/jxiv.288) 1-11頁	<p>本研究では、教育課程学研究発展のための一資料として、明治から戦後初期までに整備された幼児教育に関わる法令を概観し、課題点の整理・検討を行った。幼児教育課程においては、他の学校種と比すると幼稚園の法的・物的環境の整備は十分ではなかったこと、幼稚園数や就園率等のデータからも、当時は幼児教育が普及していなかったこと、保育項目に課題があったことを指摘した。 (11頁)</p>
8 「OC体験授業の実践報告 親子・乳幼児教育授業実践及び「表現」体験	共著	令和5年3月	信愛紀要64号 1-3頁 / 1-8頁	<p>【全体の概要】2022年度に実施したOCでの体験授業の実践「親子・乳幼児教育授業実践」及び「『表現』体験授業実践」の報告である。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>授業実践」</p> <p>9 保育原理における教授内容の範囲教科書分析を通した一考察</p> <p>10 「保育者養成校学生の持つ乳幼児子ども観 保育者と保育の原理を探るための一研究」</p> <p>11 「保育者養成に関わる授業の特徴よりよい教育方法を求めて」</p> <p>12 宗教と保育 キリスト教保育・仏教保育における保育理念の検討</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>令和5年3月</p> <p>令和5年3月</p> <p>令和5年3月</p> <p>令和5年3月</p>	<p>信愛紀要 64号 37-44頁</p> <p>信愛紀要 64号 45-52頁</p> <p>信愛紀要 64号 53-58頁</p> <p>Jxiv(DOI:https://doi.org/10.51094/jxiv.341) 1-12頁</p>	<p>【担当箇所の概要】「親子・乳幼児教育実践報告」を担当。親子・乳幼児教育実践に関しては、親子関係・子育て理論・乳幼児発達心理学に焦点を当ててカリキュラムを作成した。授業は二部制とし、赤ちゃんの生体に関して、赤ちゃんの「可愛さ」について、赤ちゃんの能力等の講義を行った。 (著者：井澤 正憲、<u>渡辺 直人</u>) (担当箇所：3項)</p> <p>本研究では、保育原理科目における教科書の分析を行った。具体的には、保育原理が包括する教授内容の範囲を明らかにした。保育原理の教科書分析の結果、20カテゴリと113項目にまとめられることがわかった。具体的には、「保育の基本」「教育・保育・子どもに関わる法律・条例・制度」「保育所保育指針と幼稚園教育要領」「保育所に関して」「幼稚園に関して」「こども園に関して」「子育て支援に関して」「遊びに関して」「子どもの発達」「保育の計画・評価」「保育の方法・実践」「障害児保育」「乳児保育」「1歳以上から3歳児未満の保育」「3歳児以上の保育」「子ども理解」「海外の保育思想・歴史」「日本の保育思想・歴史」「保育の現状」「地域・外部と保育」5項目にまとめられた。 (8項)</p> <p>本研究では現代の子ども観を明らかにすべく、保育士養成校学生を対象に、それぞれが持つ子どものイメージを自由記述により回答を求めた。具体的には、乳児観、幼児前期観、幼児後期観を明らかにした。方法はテキストマイニングを行った。調査の結果、乳児の特徴として4つがみられた。幼児前期の特徴は7つがみられた。幼児後期の特徴は5つがみられた。 (8項)</p> <p>本研究では、保育士養成校における授業の特徴を明らかにした。テキストマイニングを行い、単語の頻出度、共起回数、階層的クラスタリングを算出した。それらを概観した結果、授業には参加面・理解面においてのアクセシ性が重視されていることが示唆された。 (6項)</p> <p>わが国の保育・幼児教育の歴史的変遷を概観すると、宗教と強い結びつきがあることがわかる。本研究では宗教主義保育における保育理念(目標・特色等)の分析を行い、キリスト教・仏教それぞれの保育が持つ宗教性、価値観を明らかにした。方法は、キリスト教・仏教それぞれの宗教主義保育・幼児教育関連施設を40園選抜し、示されている保育理念</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
13 DV・デートDV予防・防止教育の基盤的教授内容の検討及びカリキュラム開発のためのリスト作成	単著	令和5年3月	わかやま子ども学総合研究センタージャーナル 55-61頁	<p>を抽出した。それらをテキストマイニングにより分析し、単語頻出度と「保育」との共起回数を求めた。分析の結果、キリスト教保育においては、感謝や礼拝、聖書、愛を大切にしていることが示唆された。仏教保育においては、感謝やいのち、思いやり、協力や集団生活を大切にしていることが示唆された。 (12項)</p> <p>本研究では、DV・デートDV予防教育の基盤的教育内容を作成することを目的とし、それを基にチェックリストを開発した。方法は2016年までに出版された文献を概観し、これまでどのような教育が行われてきたかを精査・検討した。結果、2つの大カテゴリーが抽出された。「(1)DV・暴力に関する内容」「(2)予防・防止・支援に関する内容」である。その小カテゴリーとして、(1)では11の小カテゴリーが抽出された。(2)では9の小カテゴリーが抽出された。 (7頁)</p>
14 教育評価とChatGPT統計アプローチによる実証的研究	単著	令和5年5月	Jxiv(DOI: https://doi.org/10.51094/jxiv.376) 1-9頁	<p>定性的評価物が増えている昨今、教育評価においては評価の曖昧性が課題となっている。発展著しい近年のAIテクノロジーを用いれば、この課題解決の手掛かりを得られるのではないだろうか。そのためにも、まずは基礎研究が必須である。本研究ではその一つとして、AIの教育評価能力を測定した。実施に関し、OpenAIがリリースしているChatGPT(ver.3.5)を用いて、報道レポート・記事100本を3回ずつ評価させた。得られた得点をそれぞれ「High」群、「Middle」群、「Low」群の3群に分け、フリードマン検定及びホルム法多重比較を行った。その結果、すべてのペアで有意な差が認められ(p<.01)、ChatGPTの教育評価は安定的ではないことが確認された。 (9頁)</p>
15 オンラインにおける授業方法の違いに関する一考察	単著	令和5年9月	チャイルドサイエンス(日本子ども学会) 43-46頁	<p>本研究では、遠隔授業における手法の違いによって生ずる学習者の授業評価の差異を明らかにした。</p> <p>関西地方A短期大学学生に、遠隔授業に関する評価(17項目、5件法)を問うた。項目分析及び因子分析の結果、17項目中10項目が採択された。因子分析では2因子確認され、Factor 1を「遠隔授業に対する疲労・不安・姿勢」($\alpha = 0.75$)、Factor 2を「遠隔授業上での障害と課題」($\alpha = 0.73$)と名付けた。次に、サンプルを授業方法別(「教科書参考学習群」と「動画視聴学習群」)に分け、10項目の代表値を比較した。その結果、9項目で「動画視聴学習群」の方が平均値は高く、負担が大きいことが分かった。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
16 一日の生活満足度にはどのような関連があるか 保育の生活・環境改善及び健康の視座に基づいた量的研究	単著	令和6年3月	信愛紀要第65号 9-15頁	(4頁) 本研究では子どもの生活習慣の課題解決の一助となるべく、生活内容の実態を明らかにした。本報では第一報として、生活の満足度はどのような構造にあるかを明らかにした。調査は2020年11月に、Google Formsを用いアンケート調査を行った。A短期大学1年生80名を対象とした。調査内容は15項目を設定した。分析方法は因子分析(最小二乗法斜交回転)、Spearmanの順位相関分析、パス解析を用いた。分析の結果、作成したモデルは設定した有意水準をクリアしており、適合していることが示された。また、一日の生活満足度には、運動や食事が関連していることがわかった。 (8頁)
17 家族に関する4つの教育が持つ志向の比較・検討 「家族教育」教育課程設計のための一資料として	単著	令和6年3月	信愛紀要第65号 17-23頁	本研究では、家族に関する4つの教育「学校教育家庭科家族領域」、「家族生活教育」、「DV(デートDV)予防教育」、「家族心理教育」における教育の志向を明らかにし、比較及び検討を行った。これらの教育は、学習指導要領等の教育の基準となるテキストブックをもとに、教育の内容・目的を概観し、志向を探った。結果、4つの教育それぞれ教育の目的・内容が異なっていることが明らかとなった。具体的には、家族生活教育は、学際的な教育内容を取り上げていることがわかった。DV予防教育では、方法論やパートナー関係性に着目した教育内容となっていることがわかった。家族心理教育は医療的側面が強く表れた教育であることがわかった。 (7頁)
18 教科・教育課程及び学校好感度調査—共分散構造分析による因果モデルの検討—	単著	令和6年3月	信愛紀要第65号 25-31頁	本研究では学校の通学を促進する要因を明らかにすべく、学校の中核となす学科教育、すなわち教科に対する好感度と、学校の好感度との関連を明らかにした。方法はA保育士養成校学生80名を対象に、授業終了後、Google Formsを用いてアンケート調査を行った。分析方法は、共分散構造分析を用いた。なお倫理的に十分な配慮を行い実施している。共分散構造分析の結果、実技科目が学校促進へとつながることが示唆され、文系科目、理系科目のパスは有意ではなかった。 (7頁)
19 関信三と恩物—先行研究の整理と考察—		令和6年3月	わかやま子ども学総合研究センタージャーナル No.5 37-44頁	本研究では、関信三の恩物及び『幼稚園法二十遊嬉』に関する先行研究の集約・考察を行った。具体的には、19世紀末における恩物の動向を中心課題として捉えたうえで、『幼稚園法二十遊嬉』執筆の背景、関信三の恩物の認識、序文における疑問に関して述べた。関の同書執筆の背景では、関信三が紹介した恩物の参考元に関する考察をまとめ、原

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
20 教育施設へのアクセシビリティ：背景・状況・構造を考究する	単著	令和6年3月	OSF Preprints. doi:10.31219/osf.io/rxs9a. (2022年度『地域指向教育研究奨励金制度』「和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター教育研究助成」報告書) 1-13頁	本の同定に迫った。ただし、恩物の種類に関する変遷は、日本語文献で考察を深めることに限界があることが分かった。 (8頁) 教育・子育てに関して様々な課題が指摘される昨今、子育て支援の必要性が高まっている。そのような中で、子育て・教育に関連する施設のアクセス性を高めることが求められてきている。本研究では、アクセス性向上のための一資料として、教育施設へのアクセスにつながる背景要因を考究した。 方法は、「教育施設親近感尺度」及び「生活状況尺度」の二尺度を作成し、乳幼児を子育て中の保護者を対象にアンケート調査を行った。基本統計量を算出後、因子分析を行い、その結果を基準に共分散構造分析を行った。分析の結果、因子分析では二尺度それぞれ二因子が確認された。共分散構造分析では、子育て・教育に関する情報への興味・関心が、アクセス促進につながることを認められた。 (13頁)
(その他) 【学会発表】 1 「保育者役割研究の現状と課題に関して」	単著	令和元年7月	日本赤ちゃん学会 第19回学術集会(東京)	めまぐるしく変化する保育現場において、保育士の役割も一様にはいえない状況にある。保育学の発展の一助として、本研究では保育者役割に関する研究を精査した。結果、「幼児理解」「安全に関する事項」「情緒の安定に関する事項」「人的・物的環境構成」「幼児における、教育上・生活上の保育者の役割」「保育者の直接的支援」「幼児の欲求充足」「教職員間の連携」「外部との連携」「子育て支援」「園に対しての役割」「遊びに関する役割」、「他教育方法に関する事項」の категорияに分けることができた。
2 「保育士志願生徒のための一資料 保育者養成系専門学校の併修の有無及び併修校の調査」	単著	令和元年10月	日本子ども学会 第16回学術集会(東京)	現在では保育者不足が深刻化している。様々な課題が山積みとなっている昨今、保育者養成も喫緊の課題である。一方少子化もあり、保育者養成系学校、特に専門学校の生存競争も激しい。しかし保育者養成系専門学校の情報は少なく、基礎資料の乏しさは専門学校業界の衰退、つまり保育者の減少にも繋がりがかねない。本調査では専門学校・保育業界の発展及び保育士志願者の円滑な進学の一助となるべく、基礎資料を得るため、全国の専門学校の併修校の有無と併修校名を明らかにした。結果、学校数は153校該当した。併修先は近畿大学九州短大が最も多かった。通信制短大の併修を専門学校側が推奨しておらず、保育士資格取得のみの学校は3校であった。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3 「成員間協働性と課題取り組み後の満足度の関連」	単著	令和3年2月	第17回日本子ども学会サテライトポスターセッション（オンライン）	現代のわが国における教育現場においては、AL（アクティブ・ラーニング）が推奨されている。ALは主体的で対話的な深い学びともいわれるが、特性上定まった形式はなく、ALは話し合い活動というイメージを持たれている現状も少なからずある。ALの指導法の発展のためにもそれら構造を明らかにしていくことが求められており、本稿ではその一助として協働性と課題の取り組み後の関連を調査した。まず、得られた回答を Spearman の順位相関分析を行った結果、満足度と協調性は有意に関連していることが明らかとなった。また、信頼性を確認すべく GP 分析を行った。その結果有意差が明らかとなり、信頼性のある結果であることが確認できた。
4 「保育士養成校学生を対象とした結婚観の学年別比較検討」	単著	令和3年10月	日本家族看護学会第28回学術集会（オンライン）	現在、我が国の婚姻や出産など人口動態における課題が深刻化している。過去と比し結婚数は減少し、晩婚化が進み、出生数も低下している。そのような中で、人口動態に関する研究の重要性はより高まっているといえる。特に結婚に関する意識を明らかにすることは、少子化や結婚減少の課題解決に向けた一助となり得よう。そこで本稿では、昨今の家族にまつわる課題解決の一資料とすべく、結婚に関する意識を明らかにする。具体的には、2群を比較し意識の差異を明らかにした。1年生（以下、A）、2年生（以下、B）の各項目同士を Mann-Whitney の U 検定を用い分析した結果、半数ほどの項目で有意差が確認でき、全項目で1年生の方が平均値は高かった。この結果からも、結婚観は学びによる影響よりも、その個人を取り巻く状況・環境に依存するものであることも同時に示された。
5 「保育学生の ICT 導入に関する意識」	単著	令和3年10月	日本子ども学会 第17回学術集会（オンライン）	ICT 化が進む現代社会では、教育・保育現場においても電子機器の導入が行われており、その是非も問われている。本稿では保育学の発展の一助として、次代の保育を担う、現在の保育者養成校学生の持つ ICT に関する意識を明らかにした。具体的には、保育者養成校学生を対象に ICT に関する意識を問うアンケート調査を行った。Spearman の順位相関分析を行った結果、自信が大きくなるほど使わせたいと思う意識が高いことが示唆された。
6 「教育評価に対する意識は学習態度とどのような関連があるか」	単著	令和3年11月	日本子育て学会 第13回学術集会（オンライン）	現在わが国日本においては、激しい社会の変化に対応すべく生きる力を推進した教育が進められている。そのような中でより一層能動的な教育を重視するようになってきている。教育評価も同様に個人の能動性を重視する傾向も増えているといい、教育形態が変化し、それに伴って評価方法・基準も変容しているともいう。本研究では教育評価と学習態度の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
7 「保育士養成校学生における子育て観の調査——保育科1年生・2年生との比較を通して——」	単著	令和3年12月	日本乳幼児教育学会第31回大会（オンライン）	<p>関連を明らかにした。その結果、相対評価と「ノートを綺麗にとっている」で有意な相関が認められ、一方で、到達度評価は有意な相関は認められなかった。すなわちこの結果は、「ノートを綺麗にとること」と記述試験成果は関連が少ないことが示唆された結果であると考えられる。</p> <p>保育士養成校学生を対象に、子育てに関する意識を明らかにした。具体的には、保育士養成校1年生・2年生の子育て観を比較した。アンケート調査の結果、平均値を比較すると、4項目中3項目が1年生の方が高く、1項目で同等であった。この結果に関して、比較すれば2年生の方が低い結果となったが、実際の値をみてみると、2年生の平均値も著しく低い値とはいえない。すなわち、2年生の方が低いというのではなく、「1年生の方が高い」といえる結果であると考えられる。</p>
8 「現代保育学生の遊びに関する意識調査」	単著	令和4年8月	日本教育心理学会第64回総会（オンライン）	<p>本研究では、保育士養成校学生を対象に、子育てに関する意識を家庭生活、遊びの観点から問うた。関西地方にあるA保育士養成校2年生89名を対象とした。質問内容は遊びに関する意識として6項目設定し、逆転項目を一つ取り入れた。分析はSpearmanの順位相関係数を求めた。調査の結果、自然と触れ合える遊びを重視している者は、友達と遊ぶ必要はないとは思わないこと、手作りで物を作ってあげたいと思っていることが示された。</p>
9 「学習態度「まじめさ」はどのような関係にあるか」	単著	令和4年8月	日本学校心理学会第24回大会（オンライン）	<p>本研究では、今後の教育評価の在り方、授業・教育カリキュラムの改善のための一資料として、学習態度「まじめさ」の関連を調査した。保育士養成校学生1年生73名を対象とし、アンケート調査を行った。分析はSpearmanの順位相関係数を求めた。有意水準αは0.01に設定した。その結果、講義形式が好きで、よい成績をよれるよう努力していたと答えたものほど、授業中、まじめに取り組んでいたことが示唆された。</p>
10 「成人アタッチメント研究における尺度的課題」	単著	令和4年9月	第63回日本母性衛生学会総会・学術集会	<p>本研究では、成人アタッチメントの課題点を浮き彫りし、その実態を考察した。議論には二つの課題を取り上げた。一つは多くの尺度が開発され、飽和状態となり、各尺度間のアタッチメントスタイルに等価性が曖昧な点、そして、成人アタッチメント研究において前提となっている、Bartholomew・Horowitzの「自己観・他者観」は再検討が必要な点、以上の二点を挙げ、検討を行った。</p>
11 「保育士養成校学生の健康における関連要因の検討 実際生活の視点か」	単著	令和4年9月	日本社会福祉学会第70回大会	<p>本研究では、保育職のよりよい労働環境の構築のため、健康観とその構造を明らかにした。短期大学生73名を対象とし、健康観に関する質問9項目を問うた。クロンバックの</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
ら」				α係数を算出した後、パス解析を行った。分析の結果、よく運動すること、リズム正しい食事、生活を送ることの重要性も示唆された。なお、モデル適合度は概ね許容範囲の適合値となり、示唆を得るものとなったが、十分な値ではなく、サンプル数・外生変数を再検討する必要性もみられた。
12 保育士養成校科目「保育内容総論」に関する受講生の主観的感覚統計的アプローチによる一考察	単著	令和5年9月	日本学校心理学会 第25回富山大会（オンライン）	保育士養成校の保育内容総論の重要性と、その教育効果を明らかにするために、学生72名に対する自己評価調査を行った。方法は因子分析（最小二乗法プロマックス回転）を用いた。調査・分析の結果から、座学的内容、実践的内容、遊びと生活の3つの要素が抽出された。また、授業形態にかかわらず、学びの程度に大きな違いはないことが示唆された。
13 保育士養成校学生の乳児に対する認識：実践的・感覚的認識への量的アプローチ	単著	令和5年8月	日本教育心理学会 第65回総会（オンライン）	昨今の保育・幼児教育において、乳幼児に対する虐待や不適切指導の増加といった課題がある。これらの問題に対処するためには、まずは乳幼児に対する認識を明らかにする必要がある。そこで、保育士養成校学生70名を対象にアンケート調査を実施し、乳幼児観に関するデータを収集した。調査の結果、乳幼児に対する関心や好意は平均的に高いことがわかった。また、因子分析（最小二乗法プロマックス回転）では、2因子（第1因子「乳児への関わり」、第2因子「乳児に対する知的好奇心」）確認された。
14 (文献紹介)「関信三(1879)『幼稚園法二十遊嬉』	単著	令和6年3月	わかやま子ども学総合研究センタージャーナル No.5	本稿は関信三(1879)『幼稚園法二十遊嬉』のブックレポートである。本稿では、本書の構成や特徴、本書から読み取れる社会背景、本書の広がりや効果に関して述べている。様々な幼児教育の課題がある現代において、原点への回帰が求められていることから、幼稚園教育の「立脚点」ともいえる本書を紹介した。